



農林水産省HPより転載

青 森 つがるロマンは草丈が44.9cmで平年より0.8cm短く、株当たりの茎数は26.3本で2.7本少なく、葉齢は9.3葉で0.1葉多い。青天の霹靂は草丈が52.4cmで2.8cm長く、株当たりの茎数は26.6本で0.4本多く、葉齢は8.6葉で0.2葉多。まっしぐらは草丈が57.5cmで5.6cm長く、株当たりの茎数は31.2本で1.0本多く、葉齢は9.1葉で0.3葉多い。

新 潟 (新発田)出穂は、平年よりやや早まる見込み。
(新 潟)出穂期は早生で平年比3日早い。中生で平年比2日早い。
(三 条)生育は草丈やや長い、葉色濃い。出穂期は早生・中生とも2日ほど早まる予測
(岩 船)管内の早生品種(ちほみのり、つきあかり等)で幼穂が確認され始めている。「コシヒカリ」の出穂期は平年並の見込み。5月上旬移植の早生品種は、前年並みに出穂が早まる見込み。
(佐 渡)「コシヒカリ」生育過剰のほ場が目立ち、籾数過剰による品質低下が懸念される。出穂期は平年より3日程度早いと予想。
(十日町)「コシヒカリ」の生育は、草丈は「並」、茎数は「やや多い」。葉数の進みは「並」、葉色は「並」。平坦地では、ほ場により褪色が始まっている。移植の早い早生品種では、幼穂形成期に達しているほ場も見られる(5月8日移植の五百万石など)。

富 山 「コシヒカリ」：葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数はやや多くなっている。
今後、平年並の気温で推移した場合、幼穂形成期、出穂期は、それぞれ平年より1日程度早い7月10日頃、8月1日頃と見込まれる。

日本酒原料のお米は主食用の品種に加えて酒造好適米が使われます。ここ10年くらいは醸造量の減少とは別に原料米の使用量はそこまで減少していませんでした。これは主に醸造量当たりの米使用料が多くなったことが要因と考えられています。純米酒や精米歩合が60%の吟醸酒や50%まで搗き込んだ大吟醸酒の人气が高まったことで原料米の使用量が増えたのです。しかしCOVID-19以降は出荷量が激減してしまい、現在は供給過剰傾向にあります。

主食用は逆に分搗き米や玄米食に目が向いてきています。傾向としては吟醸酒の原料とは逆ということになります。さらに雑穀米など白米以外の食べ方が増えてますます消費量は減少しているのが現状です。

今週の玄米入荷情報

富山 コシヒカリ
茨城 コシヒカリ
福島 会津コシヒカリ HG
山形 雪若丸
青森 青天の霹靂
北海道 ななつぼし
新潟 コシヒカリ 長岡特裁
岩手 ひとめぼれ 前沢
新潟 岩船コシヒカリ
山形 つや姫 特別栽培
福井 いちほまれ 特別栽培
秋田 あきたこまち やまもと
佐賀 さがびより
佐賀 夢しずく 特別栽培
福井 コシヒカリ テラル越前
長野 コシヒカリ 飯山

鹿児島コシヒカリ(種子島)

順調に来れば今週中に入荷する予定です。
早くからのご注文ありがとうございました。
お楽しみに～

